

[illegible]

旭川工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	美術	
科目基礎情報							
科目番号	0001		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	一般人文科		対象学年		1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	高校美術 1 (日本文教出版)						
担当教員	山谷 律子						
到達目標							
1. 作品の製作を通じて自己表現をすることができる。 2. 自主的計画的に作品を完成させることができる。 3. 作品の鑑賞を通じて、多様な個性を知ることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	作品を通じて優れた自己表現をすることができる。		作品を通じて自己表現をすることができる。		作品を通じて自己表現をすることが不十分。		
評価項目2	自主的計画的に作品を完成させることができる。		作品を期限内に完成させることができる。		作品を期限内に完成させることができない。		
評価項目3	様々な作品の特徴や表現方法について十分理解することができる。		様々な作品の特徴や表現方法について理解することができる。		様々な作品の特徴や表現方法についての理解が不十分。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 一般人文科の教育目標 ④ 学習・教育到達度目標 本科の教育目標 ④							
教育方法等							
概要	幅広い作品の鑑賞を通じてそれぞれの「美しさ」を発見し、種々の作品制作を通じて表現するという感覚を身につける。また、他との比較ではなく、自分の中で意図する表現に近づけていける力を養うことを目標としている。						
授業の進め方・方法	さまざまな作家の作品を鑑賞し、その特徴について考察する。実際にみたものを様々な表現で描くことを通して自己を表現する方法を学ぶことが出来る。友達の作品を鑑賞し多様な個性を知るとともに制作することの楽しさを味わう。						
注意点	作品制作にあたっては、授業時間内において自らの発想・創意・工夫・表現をもって完成できるように努めること。評価は主に作品（各課題ごと）の提出率及び完成度に基づき比較して行う。ただし、遅刻、忘れ物等は減点対象とする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	1. はじめに、対象を見て描く		授業内容および評価の方法について説明する。対象をよく観察し自分なりに描くことができる。		
		2週	2. 物体の形態と見え方の変化①		透視図法を用いて工業製規格品を描く。対象の形態の理屈を知る。		
		3週	2. 物体の形態と見え方の変化②		透視図法を用いて工業製規格品を描く。対象の形態の理屈を知る。		
		4週	2. 物体の形態と見え方の変化③		透視図法を用いて工業製規格品を描く。対象の形態の理屈を知る。		
		5週	2. 物体の形態と見え方の変化④		透視図法を用いて工業製規格品を描く。対象の形態の理屈を知る。		
		6週	3. 鑑賞「旭川と彫刻」		旭川と彫刻のかかわりに触れ、理解を深めることができる。		
		7週	4. 筆で描く「絵手紙」①		毛筆による技法を生かし、繪と文字をいきいきと描くことができる。		
		8週	4. 筆で描く「絵手紙」②		毛筆による技法を生かし、繪と文字をいきいきと描くことができる。		
	4thQ	9週	4. 筆で描く「絵手紙」③		毛筆による技法を生かし、繪と文字をいきいきと描くことができる。		
		10週	5. 平面構成①		色彩効果を生かした平面構成を制作することができる。		
		11週	5. 平面構成②		色彩効果を生かした平面構成を制作することができる。		
		12週	5. 平面構成③		色彩効果を生かした平面構成を制作することができる。		
		13週	6. 自画像を描く①		思春期における自分の変化をよく観察して表現することができる。		
		14週	6. 自画像を描く②		思春期における自分の変化をよく観察して表現することができる。		
		15週	6. 自画像を描く③		思春期における自分の変化をよく観察して表現することができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	成果品・実技	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

旭川工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	保健
科目基礎情報						
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般人文科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	現代高等保健体育（大修館書店）・各テーマに関するプリント資料（新聞・雑誌、出版物等）・V T R					
担当教員	小西 卓哉,阿羅 功也					
到達目標						
1.個人及び集団の生活における健康・安全についての関心を深めることができる。 2.運動とからだについての正しい知識と実践法に関する学習を進めることができる。 3.健康的なライフスタイルについての理解と実践する生活態度・能力を養うことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	健康についての理解を深め、自己および集団のとるべき行動を判断し、適切に働きかけながら、主体的に健康的な行動ができる。		日常生活において、自己のとるべき行動を判断し、日常に潜む危険を回避し健康的な生活を送ることができる。		日常生活において、自己のとるべき行動を判断できない。日常に潜む危険に気付くことができない。	
評価項目2	自己の体力を理解し、適切なトレーニングを選択・実践し、体力を高めることができる。		体力テストの結果に基づいて、自己の体力向上のためのトレーニング計画を立案することができる。		体力トレーニングの結果から自己の体力向上のための課題に気付くことができない。	
評価項目3	健康的な生活を送るための自己の課題を理解し、日常生活においても継続的に実践することができる。		健康的な生活について、自己の取るべき行動を理解し、実践することができる。		健康的な生活について、理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 一般人文科の教育目標 ④ 学習・教育到達度目標 本科の教育目標 ④						
教育方法等						
概要	個人及び集団の生活における健康・安全についての関心を深め、運動とからだについての正しい知識と実践法に関する学習を進める。健康的なライフスタイルについての理解と実践する生活態度・能力を養う。					
授業の進め方・方法	前期については健康の増進についての理解を深め、飲酒・喫煙・薬物・性の問題についても身近な問題と認識できるように各種資料を用いながら進めていく。後期についても、運動を実践していくための理論や方法を資料を用いながら進めていく。また、体育Ⅰと運動して、体力トレーニングプログラムの実践を行い、自らの健康・体力の維持・増進をはかるための実践力を育成する。					
注意点	授業に関してはプリントを中心としながら授業を展開していくので、授業で扱った事柄について自ら進んで関心を持ち新聞、インターネット等を活用し身近な問題として各自の生活にフィードバックすることが望ましい。運動実践に関しての授業は、各種資料を用いながら健康と運動についての理解を深めてもらうために、自ら進んで運動の実践を行うことが望ましい。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	健康の考え方		・健康とは何か、授業の概要を理解できる。 ・生活習慣病を防ぐためのライフスタイルについて考えることができる。	
		2週	健康の成立条件		・ヘルスプロモーションとは何かが理解できる。	
		3週	健康と意思決定・行動選択		・意思決定・行動選択とそれに影響を与える要因を理解できる。	
		4週	喫煙と健康①		・タバコの有害成分が、喫煙者、非喫煙者に及ぼす影響を考えることができる。	
		5週	喫煙と健康②		・タバコの有害成分が、喫煙者、非喫煙者に及ぼす影響を考えることができる。	
		6週	性機能の成熟		・思春期における性的な変化を異性も含めて理解することができる	
		7週	受精・妊娠・出産の生理 次週、中間試験を実施する		・受精・妊娠・出産の生理を理解することができる。	
		8週	飲酒と健康①		・アルコールの一気飲みなどが体に及ぼす影響を理解できる。	
	2ndQ	9週	飲酒と健康②		・アルコールの一気飲みなどが体に及ぼす影響を理解できる。	
		10週	薬物乱用と健康①		・薬物乱用が体や精神に及ぼす影響を理解することができる。	
		11週	薬物乱用と健康②		・薬物乱用が体や精神に及ぼす影響を理解することができる。	
		12週	結婚と健康		・結婚や受胎調節の正しい知識をもち、家族計画について考えることができる	
		13週	家族計画		・結婚や受胎調節の正しい知識をもち、家族計画について考えることができる	
		14週	性行為感染症		・性行為感染症の症状を知り、予防方法を理解し将来実践へとつなげていくことができる。	
		15週	性の指向		・様々な性指向について知り、理解を深めることができる。	
		16週	前期末試験			
後期	3rdQ	1週	運動不足の害		・現代人における運動不足の実態、人間は運動しないとどうなるか（運動不足の害）がわかる。	
		2週	運動と寿命		・運動と寿命に関する諸研究のデータを知る。	

		3週	健康と運動	・運動の実施による身体への影響・効果について理解できる。 ・基礎代謝の意味がわかる。
		4週	生活習慣病と運動	・運動（有酸素運動）には生活習慣病の予防・治療効果があることを理解できる。
		5週	体力トレーニングの目的	健康・体力を高めるトレーニングの意義や目的について理解できる。
		6週	トレーニングの原理・原則	・トレーニングの5原則について理解できる。
		7週	トレーニングの進め方① 次週、中間試験を実施する	・トレーニングを行う際のポイント、注意点などがわかる。
		8週	トレーニングの進め方②	・自分の体力の特徴を理解し、自分に合ったトレーニング方法を考えることができる。
	4thQ	9週	1 R M（最大挙上重量）の測定	・ベンチプレスでの1 R Mの測定の方法や注意点等がわかる。
		10週	目的別にみた体力トレーニングの方法①	・筋力・瞬発力・持久力の向上などに適したトレーニングについて、目的別に具体的な方法を理解できる。
		11週	目的別にみた体力トレーニングの方法②	・筋力・瞬発力・持久力の向上などに適したトレーニングについて、目的別に具体的な方法を理解できる。
		12週	体力トレーニングプログラムの作成と実施①	・自分の体力の特徴について理解し、自分の健康・体力の維持・増進に適した体力トレーニングプログラムを作成・実施することができる。
		13週	体力トレーニングプログラムの作成と実施②	・自ら計画し体育で実施したトレーニングに修正を加える事ができる。
		14週	体力トレーニングプログラムの作成と実施③	・自ら計画し体育で実施・したトレーニングに修正を加える事ができる。
		15週	トレーニングのまとめ	・トレーニングの実施を振り返り、運動習慣の重要性を理解し、今後の生活に生かすことができる。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	

評価割合

	試験	発表	レポート	態度	学習ノート	その他	合計
総合評価割合	70	0	20	0	10	0	100
基礎的能力	70	0	20	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

旭川工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	体育 I
科目基礎情報						
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般人文科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	プリント・VTR 等					
担当教員	小西 卓哉,阿羅 功也					
到達目標						
1. 互いに協力し合い、主体的に運動課題に取り組むことができる。 2. 自己の能力に応じて、運動における基本技術の習得や体力向上を目指すことができる。 3. 自己や周囲の安全に留意して活動することができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		準備・活動の場面において、自己および仲間のとるべき行動を判断し、適切に働きかけながら、主体的に活動できる。		準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断し、仲間と協力しながら活動できる。		準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断できない。仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。
評価項目2		自己の能力を理解し、適切な運動技能、運動強度を判断し、技術や体力を高めることができる。		教員が指示した運動課題に従い、運動の基本技術や体力を身につけることができる。		教員の指示に従わず、運動の基本技術や体力を身につけることができない。
評価項目3		自己や周囲の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動や、周囲への声かけができる。		自己の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		安全に留意しながら活動することができない。
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 一般人文科の教育目標 ④ 学習・教育到達度目標 本科の教育目標 ④						
教育方法等						
概要	さまざまなスポーツ種目の基本技術習得と経験を通して、生涯に渡って主体的に運動・スポーツ活動を実践する態度と能力を養成する。また合理的な運動学習によって社会性や公正な態度を身につけさせる。					
授業の進め方・方法	前期はバレーボール・ソフトボール、後期は卓球・フットサルの歴史・特性・マナー・ルール等を学び、基本技術を習得してゲームを経験し、自主的に練習やゲームを運営できるようにする。また、後期において保健と運動して、体力トレーニングプログラムの実践を行い、自らの健康・体力の維持・増進をはかるための実践力を育成する。					
注意点	授業に際しては、安全面への配慮から必ず運動に適した服装で参加をすること。怪我の防止のために装飾品は外すこと。集団スポーツにおいては、チームワークの大切さを理解し、チームでの役割を考えチームプレーを心掛けて積極的に参加をすること。個人スポーツにおいては、勝利ばかりに固執するのではなく相手を尊敬し、認めたくうえでゲーム運営ができること。体力トレーニングプログラムの実践においては、自らの体力の状態を知り、無理のないトレーニングを心がけ、特にトレーニング機器使用時には安全に十分気をつけること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・新体力診断テスト① (反復横とび、上体起こし)		・生涯スポーツの基本的考え方、カリキュラム、授業に際しての心得を理解することができる。 ・自己の体力水準を知り、今後の体力づくりの目標を立てることができる。	
		2週	新体力診断テスト② (長座体前屈、握力、立ち幅跳び、20mシャトルラン)		・自己の体力水準を知り、今後の体力づくりの目標を立てることができる。	
		3週	バレーボール① 基本技術の練習 (オーバーハンドパス、アンダーハンドパス) ミニゲーム		・オーバーハンドパス、アンダーハンドパスを正確に行うことができる。 ・基本のパスを用いてゲームを行うことができる。 ・イン、アウトの判定、基本的な反則を理解し、相互審判をし、ゲームを進めることができる。 ・安全に配慮したゲーム運営・進行をすることができる。	
		4週	バレーボール② 基本技術の練習 (サーブ) ミニゲーム		・アンダーハンドやフローターなど、各種サーブを正確に打つことができる。 ・基本のサーブ、パスを用いてゲームを行うことができる。	
		5週	バレーボール③ 基本技術の練習 (スパイク・ブロック) ミニゲーム		・ネット上の高い打点で、スパイクを打つことができる。ネット上の高いポイントで、ブロックをすることができる。 ・基本のサーブ、パス、スパイクを用いて、3 段攻撃を目指したゲームを行うことができる。	
		6週	バレーボール④ フォーメーションの基本練習 (サーブ・スパイク・ブロック) ミニゲーム		・サーブ・スパイク・ブロックの理解し、攻撃につなげることができる。 ・ポジションに関わる反則(ポジショナルフォールト、バックアタック等)を理解し、ゲームをすることができる。	
		7週	バレーボール⑤ リーグ戦①		・これまでに学んだ知識・技能を生かして、安全・公正にリーグ戦を行うことができる。	
		8週	バレーボール⑥ 実技テスト・リーグ戦②		・これまでに学んだ知識・技能を生かして、安全・公正に実技テストやリーグ戦を行うことができる。	
	2ndQ	9週	新体力診断テスト③ (50m走、ハンドボール投げ)		・自己の体力水準を知り、今後の体力づくりの目標を立てることができる。	

後期		10週	ソフトボール① 基本技術の練習 (スローイング、キャッチング) ミニゲーム	・正しいボールの握り方、グラブの使い方ができる。 ・基本のスローイング、キャッチングができる。 ・基本的なルールを理解し、ゲームを進めることができる。 ・安全に配慮したゲーム運営・進行をすることができる。
		11週	ソフトボール② 基本技術の練習 (スローイング、キャッチング、バツスイング) ミニゲーム	・正しいボールの握り方、グラブの使い方ができる。 ・基本のスローイング、キャッチングができる。 ・正しいバツグリップと構えができる。
		12週	ソフトボール③ 実践でのフィールディング ミニゲーム	・ゴロ・フライ捕球からの送球ができる。
		13週	ソフトボール④ 実戦プレーのチーム練習	・各ポジションの守備位置がわかる。 ・チームで作戦を立て、ゲームにいかすことができる。
		14週	ソフトボール⑤ リーグ戦①	・これまでに学んだ知識・技能を生かして、安全・公正にリーグ戦を行うことができる。
		15週	ソフトボール⑥ 実技テスト・リーグ戦②	・これまでに学んだ知識・技能を生かして、安全・公正に実技テストやリーグ戦を行うことができる。
		16週		
	3rdQ	1週	フットサル① 基本技術の練習 (各種キック・ボールコントロール) ミニゲーム	・フットサルの技術的特性を理解し、各種キックを正確に行うことができる。 ・トウと足の裏をつかったのボールコントロールが出来る。 ・基本的なルールを理解し、相互審判をし、ゲームを進めることができる。 ・安全に配慮したゲーム運営・進行をすることができる。
		2週	フットサル② 基本技術の練習 (シュート・1対1) ミニゲーム	・ボールをコントロールしながら、シュートにつなげることができる。 ・1対1のオフェンスとデフェンスの方法が理解できる。
		3週	フットサル③ ゲームによる実践練習	・コートバランスを意識しながらプレーができる。 ・ゴールクリアランス、キックインが理解できる。
		4週	フットサル④ 実戦プレーのチーム練習	・各ポジションの役割がわかる。 ・チームで作戦を立て、ゲームにいかすことができる。
		5週	フットサル⑤ 実技テスト・リーグ戦	・これまでに学んだ知識・技能を生かして、安全・公正に実技テストやリーグ戦を行うことができる。
		6週	卓球① 基本技術の練習 (フォア・バック) ミニゲーム	・卓球の技術的特性や基本的ルールが理解できる。 ・正しいグリップができる。(ペンホルダー、シェイクハンド) ・各種打法の打ち方が理解できる。 ・基本的なルールを理解し、相互審判をし、ゲームを進めることができる。
		7週	卓球② 基本技術の練習 (サーブ・レシーブ) ミニゲーム	・各種打法やサーブの打ち方が理解できる。 ・各種ストロークを用いてシングルスゲームができる。
		8週	卓球③ 基本技術の練習 (スマッシュ・カット) ミニゲーム	・各種打法やサーブの打ち方が理解できる。 ・各種ストロークを用いてシングルスゲームができる。
	4thQ	9週	卓球④ リーグ戦	・これまでに学んだ知識・技能を生かして、安全・公正にリーグ戦を行うことができる。
		10週	卓球⑤ リーグ戦	・これまでに学んだ知識・技能を生かして、安全・公正にリーグ戦を行うことができる。
		11週	体力トレーニング① 自己の体力の特徴を知る 体力トレーニングの実践	・無理のないトレーニングを心がけ、トレーニングマシン使用時には安全に十分気をつけて活動することができる。 ・保健の授業で作成したトレーニングプログラムを実践し、自己の体力の向上に前向きに取り組むことができる。
		12週	体力トレーニング② 体力トレーニングの実践	・保健の授業で作成したトレーニングプログラムを実践し、自己の体力の向上に前向きに取り組むことができる。
		13週	体力トレーニング③ 体力トレーニングの実践	・保健の授業で作成したトレーニングプログラムを実践し、自己の体力の向上に前向きに取り組むことができる。
		14週	競技選択①	・フットサル・卓球・トレーニングから選択し、事前に学んだ知識・技術を基に、運動に取り組むことができる。 ・構成されたグループで、練習・試合等についてどのように行つか検討し、自主的・計画的に活動することができる。 ・安全に配慮した運営・進行をすることができる。
		15週	競技選択②	・フットサル・卓球・トレーニングから選択し、事前に学んだ知識・技術を基に、運動に取り組むことができる。 ・構成されたグループで、練習・試合等についてどのように行つか検討し、自主的・計画的に活動することができる。 ・安全に配慮した運営・進行をすることができる。

		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1	前7,前8,前13,後9,後10,後14,後15	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1		
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1		
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1		
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1		
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1		
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1		
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1		
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1		
評価割合							
	ゲーム・試合評価	実技テスト等	レポート	口頭発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	20	30	0	0	0	100
基礎的能力	0	20	0	0	0	0	20
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	50	0	30	0	0	0	80

旭川工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語 I
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般人文科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	「精選国語総合」(三省堂)、学習課題ノート(三省堂)、「カラー版新国語便覧」(第一学習社)、「標準漢字演習」(とうほう)、国語辞典・古語辞典・漢和辞典				
担当教員	石本 裕之,倉持 しのぶ				
到達目標					
1 論理的な文章を客観的に理解することができる。 2. 文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。 3. 日本文化への理解を深めることができる。 4. 現代日本語の知識を適切に活用して表現できる。 5. 論理的かつ効果的に双方向的コミュニケーションをとることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	論理的な文章を客観的に理解することができる。		論理的な文章を理解することができる。		論理的な文章を理解することができない。
評価項目2	文学的な文章を多角的に鑑賞することができる。		文学的な文章を鑑賞することができる。		文学的な文章を鑑賞することができない。
評価項目3	日本文化への理解を十分に深めることができる。		日本文化への理解を深めることができる。		日本文化への理解を深めることができない。
評価項目4	現代日本語の知識を適切に活用して表現することができる。		現代日本語の知識を活用して表現することができる。		現代日本語の知識を活用して表現することができない。
評価項目5	論理的かつ効果的に双方向的コミュニケーションをとることができる。		双方向的コミュニケーションをとることができる。		双方向的コミュニケーションをとることができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 一般人文科の教育目標 ① 学習・教育到達度目標 本科の教育目標 ①					
教育方法等					
概要	現代文・古文・漢文をバランスよく学習し、知識・読解力・鑑賞力を身につけるとともに、論理的思考力を伸ばすことができるよう、シラバスに沿って授業を進める。漢字検定試験準2級以上(4年生までに2級)合格をめざす。				
授業の進め方・方法	予習を前提として授業を進める。現代文は本文を熟読し、漢字の読み方や語句の意味を調べておくこと。古文・漢文は授業で説明する方法を用いて授業の前にノートを作成しておき、授業中は必要事項を書き込むようにする。夏・冬の長期休暇には別途課題を課す。				
注意点	授業内容をきちんと理解するために、毎回必ず予習をして授業に臨むこと。 ① 学習に有用な、しっかりしたノート作りを確実にし、理解力・表現力の伸長に心がける。 ▼はじめの授業にノート作り指導をする。以後、どの教材もその仕方で各自ノート作りを行うこと。 ▼現代文・古文・漢文それぞれ別個の、ノートを用いること。(ファイル式は不可。) ▼古文は予習として、本文書写と活用語、特に助動詞の明示を怠らないこと。 ▼漢文は予習として、白文と書き下し文の記入を怠らないこと。 ▼現代文ノートでは特に、聞き取りながらメモする作業を重視すること。 ② 辞書を引き予習復習を行って、漢字力・語彙力を養成し、日常的な学習習慣を身につける。 ▼教材程度のレベルの文章を自力で読み解くことができるようになることが肝心。 ▼予習習慣の身に付けが、学習習慣身に付けの基礎であることを忘れないように。 ▼「自分で調べ、読み、書く」ことが「勉強」であると、銘記すること。 ③ 新聞を含め広く文章に親しみ、実際に読み書きすることを心がける。具体例としてコラム写書を行うことを推奨する。 ▼必要な能力を身に付けるために、国語が不得意と自分で思う者ほど取り組む必要がある。 ▼平常点に結びつくものであるから、国語が不得意と自分で思う者ほど取り組む必要がある。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス ノート法演習	・学習の取り組み方や意義・評価法等がわかる。 ・ノート作りが具体的にできる。	
		2週	【漢文】 ・漢文の世界へ ・漢文の構造と訓読の仕方	・基本的漢文構造を理解し、訓読文を読み下すことができる。	
		3週	・成句・格言を読む ・推敲(唐詩紀事) 〈古典の扉〉	・漢文に親しみ、訓読文、書き下し文にすることができる。	
		4週	【現代文】 ・ぐうぜん、うたがう、読書のススメ(随想)	・筆者の見方、感じ方を読み取ることができる。 ・文意を正確に読み取ることができる。	
		5週	・「待つ」ということ(随想)	・要旨まとめの基礎を身につけることができる。	
		6週	【古文】 ・児のそら寝(宇治拾遺物語)	・歴史的仮名遣い・係り結びを理解し、古文に親しみ、現代の言葉との関連を理解することができる。	
		7週	〈文法から解釈へ①〉 〈古文を読むために①〉 次週、中間試験を実施する	・文語文法の基礎を理解することができる。	

後期	2ndQ	8週	答案返却指導 【漢文】 ・ 漁父之利（戦国策） ・ 借虎威（戦国策）	・ 漢文の訓読や・書き下し文に慣れ、読みを進めることができる。 ・ 故事成語を身につけることができる。
		9週	・ 漢詩 〈漢詩の表現〉	・ 詩の形式を理解し暗唱することができる。
		10週	【現代文】 ・ 羅生門（小説）	・ 背景事項や登場人物の心理に注意しながら読み進めることができる。
		11週	・ 羅生門（小説） ※清兵衛と瓢箪（志賀直哉）	・ 人物の心理変化を的確に読み取り、小説を味読することができる。 ※小説を鑑賞し、読書レポートをまとめることができる。
		12週	・ 水の東西（評論）	・ 論理展開をとらえ、思考を深めることができる。
		13週	【古文】 ・ 芥川（伊勢物語） 〈文法から解釈へ②③〉	・ 古文ノートを作成し自学自習できる。
		14週	〈古文を読むために②③〉 ・ 筒井筒（伊勢物語）	・ 古文の文体に慣れ、物語の内容を理解することができる。
		15週	〈文法から解釈へ④〉 〈古文を読むために④⑤〉	・ 用言の活用を理解し、活用の種類、活用形を指摘することができる。
		16週	前期末試験	
	3rdQ	1週	【漢文】 ・ 鶏口牛後（十八史略）	・ 訓読や訓点・書き下し文に習熟し、基礎的な漢文を読み進めることができる。
		2週	・ 晏子之御（史記）	・ 話題の展開を的確に捉えることができる。
		3週	【現代文】 ・ 言語は色眼鏡である（評論）	・ 論理的な文章の構成を理解し、叙述に即して読解することができる。
		4週	・ 言語は色眼鏡である（評論） ・ 情報と身体（評論）	・ 提起された問題に対して自ら考えることができる。
		5週	・ 情報と身体（評論）	※小説を鑑賞し、読書レポートをまとめることができる。
		6週	【古文】 ・ 丹波に出雲といふ所あり（徒然草） 〈文法から解釈へ⑤〉	・ 古文の文体に慣れ、筆者の考え方を理解することができる。
		7週	・ 門出（土佐日記） 次週、中間試験を実施する	・ 形容詞、形容動詞、助動詞について説明することができる。
		8週	答案返却指導 【漢文】 ・ 論語	・ 漢文の基礎力を固め、孔子・孟子の学問や政治に対する考えを知り、事故の施行を深めることができる。
	4thQ	9週	・ 論語 ・ 孟子	・ 漢文の基礎力を固め、孔子・孟子の学問や政治に対する考えを知り、事故の施行を深めることができる。
		10週	・ 孟子	・ 漢文の基礎力を固め、孔子・孟子の学問や政治に対する考えを知り、事故の施行を深めることができる。
		11週	【現代文】 ・ コインは円形か〈評論〉	・ 筆者の主張を的確に理解し、自らのものの見方・感じ方を深めることができる。
		12週	・ コインは円形か〈評論〉 ・ 命は誰のものなのか〈評論〉	・ 評論文を読んで要旨をまとめることができる。
		13週	・ 命は誰のものなのか〈評論〉 【古文】 ・ 祇園精舎（平家物語）	・ 提起された問題に対して自ら考えることができる。 ・ 古文の基礎知識を確かなものにすることができる
		14週	・ 祇園精舎（平家物語） ・ 旅立ち（奥の細道）	・ 代表的な古典文学作品を味わうことができる
		15週	・ 旅立ち（奥の細道）	・ 代表的な古典文学作品を味わうことができる
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	1	前12,後3,後4,後5,後11,後12,後13
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	1	前12,後3,後4,後5,後11,後12,後13
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	1	前4,前5,前10,前11
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	1	前2,前3,前4,前5,前10,前11,前12,後1,後2,後3,後4,後5,後8,後9,後10,後11,後12,後13

				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	1	前2,前3,前4,前5,前10,前11,前12,後3,後4,後5,後11,後12,後13
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	1	前2,前3,前4,前5,前10,前11,前12,後3,後4,後5,後11,後12,後13
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	1	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	1	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	1	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	1	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	1	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	1	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	1	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	1	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	1	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	1	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	1	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	1	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	1	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	1	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	1	

評価割合

	試験	レポート	ノート	合計
総合評価割合	80	15	5	100
基礎的能力	60	5	5	70
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	20	10	0	30

旭川工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	現代社会
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般人文科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	新現代社会 (帝国書院)					
担当教員	谷口 牧子					
到達目標						
1. 現代社会の特質について、多面的に理解することができる。 2. 現代社会における四つの主要な問題、すなわち環境問題、経済問題、政治問題、国際問題について、理解することができる。 3. 国際社会における宗教や科学をめぐる問題と日本の役割について、考察を深めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	現代世界の特質について説明することができる。		現代世界の特質について理解することができる。		現代社会の特質について理解することができない。	
評価項目2	現代社会の主要な諸問題について説明することができる。		現代世界の主要な諸問題を理解することができる。		現代社会の主要な諸問題について理解することができない。	
評価項目3	文化の多様性について説明することができる。		文化の多様性について理解することができる。		文化の多様性について理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 一般人文科の教育目標 ② 学習・教育到達度目標 本科の教育目標 ①						
教育方法等						
概要	第一に、現代社会の基本性格について、理解する。 第二に、現代社会における四つの主要な問題、すなわち環境問題、経済問題、政治問題、国際問題について、理解を深める。その際に、国際社会における日本の役割について、問題の背景にある原因や、世界の様々な宗教や思想をふまえたうえで、多面的に考察することを目指す。 第三に、総じて、世界における文化の多様性について、理解を深める。					
授業の進め方・方法	第一に、現代社会の基本問題にどのような視点をもつべきか、問題の所在を検討する。 第二に、概要にあげた現代社会における四つの主要な問題に、順番にしかも多面的に接近する。その際、これらの四つの諸問題に対する、国際社会における日本の役割についても、考察を深める。 第三に、総じて、世界における文化の多様性についての理解を深めることを目指す。					
注意点	第一に、身のまわりの問題から出発して、何が問題であるか、問題を提起することが重要である。 第二に、情報の出所や問題の背景を理解しようとする姿勢が重要である。 第三に、自ら調べ、自ら考える姿勢が望まれる。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	現代社会の諸問題について		わたくしたちの生きる社会についての基本的諸問題について理解することができる。	
		2週	環境問題について (1)		環境問題について理解することができる。	
		3週	環境問題について (2)		環境問題の問題点について考察を深めることができる。	
		4週	資源・エネルギー問題について (1)		資源問題について理解し、考察を深めることができる。	
		5週	資源・エネルギー問題について (2)		エネルギー問題について理解し、考察を深めることができる。	
		6週	科学技術の問題について		科学技術の発達と生命の問題について理解し、考察を深めることができる。	
		7週	情報化社会の問題について		情報化社会の問題点について理解し、考察を深めることができる。	
		8週	哲学について		公共性の哲学について理解することができる。	
	2ndQ	9週	宗教について		文明と宗教についての基本事項を理解することができる。	
		10週	民主政治について		民主政治の原理と基本的人権について理解し、考察を深めることができる。	
		11週	日本国憲法について		憲法の原理と日本国憲法の特質について理解することができる。	
		12週	日本の政治機構について		日本の政治機構の特質および三権分立について理解し、考察を深めることができる。	
		13週	現代政治の特質について		地方自治および選挙について理解し、考察を深めることができる。	
		14週	現代政治の特質について		世論と政治参加をめぐる諸問題について、世界の動向をふまえて理解することができる。	
		15週	前期末試験			
		16週	答案返却と解説 法の支配について		法治社会の本質について、世界の水準をふまえて理解することができる。	
後期	3rdQ	1週	経済とは何か		産業革命以降の経済社会の成立について、理解することができる。	
		2週	経済のしくみ		需要と供給の理論について理解することができる。	
		3週	市場経済について		市場経済のしくみを理解することができる。	
		4週	銀行について		中央銀行の役割について理解することができる。	

		5週	財政について	経済領域に対する政府の役割と財政について理解することができる。
		6週	日本経済について（１）	戦後の日本経済の特質について、その概略を説明することができる。
		7週	日本経済について（２）	過去二十年間の日本経済の現状について、説明することができる。
		8週	豊かな生活について（１）	生活に根ざした経済社会とは何か、消費者の視点をふまえて理解することができる。
	4thQ	9週	豊かな生活について（２）	現代の労働・雇用問題について理解し、考察を深めることができる。
		10週	国際経済について（１）	貿易と国際分業について理解することができる。
		11週	国際経済について（２）	国際為替のしくみや経済のグローバル化について理解することができる。
		12週	国際政治について（１）	国際紛争に対処するための方法を考察することができる。
		13週	国際政治について（２）	核兵器や軍縮への取り組みについて理解することができる。
		14週	民族問題について	民族問題の背景を理解することができる。
		15週	戦争と平和について	世界における戦争と平和について考察を深め、日本を役割を提案することができる。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	1
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	1
		現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	1	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	1
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	1
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	1
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	1
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	1
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	1
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	1
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	1
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	1
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	1
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	1
				知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	1
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	1
				技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	1
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	1
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	1
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	1
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	1
		グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	1
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	1
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	1

				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	1	
評価割合						
	試験	レポート	ワーク	態度	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	80	10	10	0	0	100
基礎的能力	80	10	10	0	0	100
態度・志向性（人間力）	0	0	0	0	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0	0	0

旭川工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	英語 I	
科目基礎情報							
科目番号	0006		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 4		
開設学科	一般人文科		対象学年		1		
開設期	通年		週時間数		4		
教科書/教材	『Revised Vision Quest English Expression I Standard』（啓林館） 補助教材として『級別式高校英語の基礎』（三友社）を使用する。また適宜プリントを配布する。						
担当教員	本荘 忠大,水野 優子						
到達目標							
1. 中学校既習の文法事項や構文に加え、高等学校学習指導要領に示されている基礎レベルの文法事項や構文を理解し使うことができる。 2. 中学校で既習の 1200 語程度の語彙を定着させ、さらに新たに学習した語彙を理解し使うことができる。 3. 英語を用いて、ペアワークやグループワークなどの言語活動に積極的に取り組むことができる。 4. 異文化や地球的な諸問題に対する理解を深めることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	中学校既習の文法事項や構文に加え、高等学校学習指導要領に示されている基礎レベルの文法事項や構文を理解し、正確に活用・運用することができる。		中学校既習の文法事項や構文に加え、高等学校学習指導要領に示されている基礎レベルの文法事項や構文を理解し、概ね活用・運用することができる。		中学校既習の文法事項や構文や高等学校学習指導要領に示されている基礎レベルの文法事項や構文を理解しておらず、活用・運用することもできない。		
評価項目2	中学校で既習の 1200 語程度の語彙が定着しており、さらに学習した新たな語彙を理解し正しく使うことができる。		中学校で既習の 1200 語程度の語彙が概ね定着しており、さらに学習した新たな語彙をある程度理解し使うことができる。		中学校で既習の 1200 語程度の語彙が定着しておらず、新たな語彙を身につけることもできない。		
評価項目3	英語を用いて、ペアワークやグループワークなどの言語活動に積極的に参加することができる。		英語を用いて、ペアワークやグループワークなどの言語活動に参加することができる。		英語を用いて、ペアワークやグループワークなどの言語活動に参加することができない。		
評価項目4	異文化や地球的な諸問題に目を向けるとともに、その違いを理解・尊重・受容し、外国語によるコミュニケーションに活かすことができる。		異文化や地球的な諸問題に目を向けるとともに、その違いを理解することができる。		異文化や地球的な諸問題に関心をもったり、その違いを理解することができない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 一般人文科の教育目標 ① 学習・教育到達度目標 本科の教育目標 ①							
教育方法等							
概要	基本的には英語を用いて授業を進め、テキストの音読、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの英語を実際に使う活動を取り入れ、コミュニケーションの道具としての英語の運用能力を高めることを目標とする。						
授業の進め方・方法	日本語を介して英語を理解することはせず、パラフレーズ、要約、英問英答などの作業を通して、英語を英語で理解しようとする習慣を身につける。学習する文法項目などについては、「授業計画」の項を参照のこと。						
注意点	語学学習においては積極性と反復が必要であり、そのために積極的に授業に参加することや予習・復習を怠らないことが重要である。「英文法」で購入する『Vision Quest 総合英語 Ultimate』を適宜参照することが大切である。授業には英和辞書を持参することを必須とする。また英検 3 級または準 2 級の合格者に対しては、学年末の成績に 10 点を上限に加点する。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Orientation Get to Know Each Other Lesson 1: Omotenashi: The Spirit of Japan: Introduction		・ 授業の進め方、学習の仕方がわかる。 ・ 辞書の使い方の基礎を理解することができる。 ・ 初対面の人と自己紹介ができる。		
		2週	Lesson 1: Omotenashi: The Spirit of Japan Part 1		・ 外国からの旅行者が関心を持つ日本の事柄を理解することができる。 ・ 主語と述部を理解し、自己表現に用いることができる。		
		3週	Lesson 1: Omotenashi: The Spirit of Japan Part 2		・ 「おもてなし」の精神について理解することができる。 ・ 主語と述部/「S+V」「S+V+C」「S+V+O」/現在・過去・未来を表す動詞を理解し、自己表現に用いることができる。		
		4週	Lesson 1: Omotenashi: The Spirit of Japan Part 3 & 章末問題		・ 各国の「おもてなし」について理解し、考えることができる。 ・ 現在・過去・未来を表す動詞を理解し自己表現に用いることができる。 ・ もてなしについて意見を交換することができる。		
		5週	Lesson 2: Why is that so? Introduction & Part 1		・ なぜ時計が右回りなのか、なぜ女性の服のボタンは左側についているかを理解することができる。 ・ 冠詞+(形容詞)+名詞/to 不定詞(名詞的用法)を理解し、自己表現に用いることができる。		
		6週	Lesson 2: Why is that so? Part 2		・ なぜ女性の服のボタンは左側についているか、なぜ人は握手をするようになったのかを理解することができる。 ・ to 不定詞(名詞的用法)/動名詞を理解し、自己表現に用いることができる。		
		7週	Lesson 2: Why is that so? Part 3 & 章末問題 次週、中間試験を実施する		・ なぜ人は握手をするようになったのかを理解することができる。 ・ 動名詞を理解し、自己表現に用いることができる。 ・ 身の回りの疑問について意見を交換することができる。		

		8週	Lesson 3 : The Bento Goes International Introduction & Part 1	・日本の弁当について理解することができる。 ・進行形を理解し、自己表現に用いることができる。
	2ndQ	9週	Lesson 3 : The Bento Goes International Part 2	・日本の弁当、アメリカの昼食の違いについて理解することができる。 ・進行形/「S+V+O+O」の形を理解し、自己表現に用いることができる。
		10週	Lesson 3 : The Bento Goes International Part 3, 章末問題	・アメリカで流行しているキャラ弁について理解することができる。 ・「S+V+O+O」「S+V+O+C」を理解し、自己表現に用いることができる。 ・作ってみたい弁当について意見を交換することができる。
		11週	Lesson 4 Owen and Mzee: An amazing friendship Part 1, Part 2	・カバが岩礁に取り残された状況を理解することができる。 ・カバが村人により保護された経緯、カバとカメの関係を理解することができる。 ・現在完了/「S+V+O(=that 節)」を理解し、自己表現に用いることができる。
		12週	Lesson 4 Owen and Mzee: An amazing friendship Part 2	・カバが村人により保護された経緯、カバとカメの関係を理解することができる。 ・現在完了/「S+V+O(=that 節)」を理解し、自己表現に用いることができる。
		13週	Lesson 4 : Owen and Mzee: An amazing friendship Part 3, 章末問題	・カバとカメの関係を理解することができる。 ・過去完了形を理解し、自己表現に用いることができる。 ・飼ってみたい動物について意見を交換ができる。
		14週	Lesson 5 :The Impossible Is Possible Introduction & Part 1	・高野秀行氏がどのような人物であるかを理解することができる。 ・分詞の形容詞的用法/to 不定詞(形容詞的用法)を理解し、自己表現に用いることができる。
		15週	Lesson 5 :The Impossible Is Possible Part 2	・高野氏が怪獣を見つけるために何をしたかを理解することができる。 ・to 不定詞(形容詞的用法)/受け身を理解し、自己表現に用いることができる。 ・将来つきたい職業について意見を述べるができる。
		16週	前期末試験	
後期	3rdQ	1週	Lesson 5 : The Impossible Is Possible Part 3, 章末問題	・高野氏の若者に対するメッセージを理解することができる。 ・受け身を理解し、自己表現に用いることができる。 ・について意見を述べるができる。
		2週	Lesson 6 : Eric Carle: How he creates his art Introduction & Part 1	・エリック・カールの絵本と小さい生き物の関わりについて理解することができる。 ・関係代名詞/to 不定詞：副詞的用法/を理解し、自己表現に用いることができる。
		3週	Lesson 6 : Eric Carle: How he creates his art Part 2	・エリック・カールと本や音楽の関わりについて理解することができる。 ・to 不定詞：副詞的用法 を理解し、自己表現に用いることができる。
		4週	Lesson 6 : Eric Carle: How he creates his art Part 3 & 章末問題	・エリック・カールのアイデアがどこから生まれるかを理解することができる。 ・関係代名詞what を理解し、自己表現に用いることができる。 ・好きな本について意見を述べることができる。
		5週	Lesson 7 : The Netherlands – Living with water Introduction & Part 1	・オランダと日本の関係について知り、地形の特徴について理解することができる ・比較表現を理解し、自己表現に用いることができる
		6週	Lesson 7 : The Netherlands – Living with water Part 2	・オランダの人々が低地での生活の苦労をどのように克服してきたかについて理解することができる ・It is + ～ (for ～) + to 不定詞/ 「S+V+O+ to不定詞」を理解し、自己表現に用いることができる。
		7週	Lesson 7 : The Netherlands – Living with water Part 3 次週、中間試験を実施する	・オランダの地形の特徴、オランダと自転車の関係について理解することができる ・「S+V+O+ to不定詞」を理解し、自己表現に用いることができる。
		8週	Lesson 7 : The Netherlands – Living with water Part 4, 章末問題	・オランダの人々の生活について理解することができる ・S+V+O+O(=that 節)を理解し、自己表現に用いることができる。 ・行ってみたい国について意見を述べることができる
	4thQ	9週	Lesson 8: Collective Intelligence Introduction & Part 1	・「集合知」とはどのようなものであるか理解することができる。 ・「S+V+O(=疑問詞節など)」を理解し、自己表現に用いることができる。
		10週	Lesson 8: Collective Intelligence Part 2	・アリはなぜ交通渋滞を起こさないのかについて理解することができる。 ・「S+V+O+C(=現在分詞)」を理解し、自己表現に用いることができる。
		11週	Lesson 8: Collective Intelligence Part 3	・ハトの動きから何が作り出されたのか理解することができる。 ・「S+V+O+C(=原形不定詞)」を理解し、自己表現に用いることができる。

		12週	Lesson 8: Collective Intelligence Part 4 & 章末問題	・人間の集合知の例について理解することができる。 ・「It is+形容詞[名詞]+that節」を理解し、自己表現に用いることができる。
		13週	Lesson 9: 10 Billion Introduction & Part 1	・世界人口の推移とその影響について知る。 ・助動詞を含む受け身を理解し、自己表現に用いることができる。
		14週	Lesson 9: 10 Billion Part 2&Part 3	・地球上で起こっている問題とそれが引き起こすであろう未来について理解し、とそれを食い止めるためにできることを考える。 ・関係副詞、仮定法過去を理解し、自己表現に用いることができる。
		15週	Lesson 9: 10 Billion Part 4 & 章末問題	・地球上で起こっている問題とそれが引き起こすであろう未来について理解し、とそれを食い止めるためにできることを考える。 ・現在完了進行形を理解し、自己表現に用いることができる。
		16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	1	
				明瞭に聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	1	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	1	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	1	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	1	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	1	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	1	
	工学基礎	グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	1	
				それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	1	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	1	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	1	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	1	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	1	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1	

評価割合

	試験	小テスト・課題等	積極性	合計
総合評価割合	60	35	5	100
基礎的能力	60	35	5	100
分野横断的能力	0	0	0	0

旭川工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英文法
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般人文科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	【教科書】 Revised Vision Quest English Expression I Standard (啓林館) 【補助教材】 Revised Vision Quest English Expression I Standard WORKBOOK (啓林館) 【参考書】 Vision Quest 総合英語 Ultimate (啓林館)				
担当教員	鈴木 智己,本間 里美				
到達目標					
1. 英文の構造を分析的に捉えることができる。 2. 言語形式とそれに伴う意味の違いを理解することができる。 3. 学習した文法項目を用いて意図した意味を表現できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	品詞や語・句・節を意識して、英文の基本文型や構造を常に正しく捉えることができる。		品詞や語・句・節を意識して、英文の基本文型や構造を概ね正しく捉えることができる。		品詞や語・句・節を意識して、英文の基本文型や構造を正しく捉えることができない。
評価項目2	異なる言語形式が異なる意味を持つことを、正しく理解できる。		異なる言語形式が異なる意味を持つことを、概ね正しく理解できる。		異なる言語形式が異なる意味を持つことを、理解できない。
評価項目3	自分の伝えたい内容を、学習した文法項目を正しく用いて表現できる。		自分の伝えたい内容を、学習した文法項目を用いて概ね表現できる		自分の伝えたい内容を、学習した文法項目を用いて表現することができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 一般人文科の教育目標 ① 学習・教育到達度目標 本科の教育目標 ①					
教育方法等					
概要	中学既習の文法事項を基礎に、高等学校学習指導要領に準じた文法事項をあらたに習得し、英文の構造を正しくとらえる。さらに、学習した文法事項を用いて正しく表現する運用能力を身に着ける。				
授業の進め方・方法	テキスト例文の解説や問題演習を通して、文法項目の理解度と運用能力を高める。また、適宜小テストを実施する。				
注意点	・ 毎回の予習と復習を欠かさず行うこと。特に教科書の各課ページにある "Practice"は、授業前に自分で取り組み解答しておくこと。 ・ 『Vision Quest 総合英語 Ultimate』の教科書に対応する部分を参考にすると理解に役立つ。 ・ "Practice"だけでなく教科書の例文の中にある語彙も、わからない場合はこまめに辞書で調べ、文法力と併せて語彙力アップにも努めること。 ・ 予習で分からなかったところは授業で理解できるようにすること。 ・ また中学既習事項の確認と基礎力定着のために『級別式高校英語の基礎』も適宜活用する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 辞書の使い方 Appendix 1 (英語の品詞)	・ 英文法の正しい学習方法を理解できる。 ・ 英和辞典を用いた語句の調べ方を理解できる。 ・ 英語の10品詞とその働きを理解できる。	
		2週	Appendix 1 (英語の品詞) Lesson 1 (文の種類)	・ 文の中での単語をそれぞれの品詞に分類することができる。 ・ 「平叙文(肯定文、否定文)」・「疑問文(Yes-No疑問文、Wh-疑問文)」・「命令文」・「感嘆文」を理解し、実際に用いることができる。	
		3週	Lesson 2 (文型と動詞)	・ 文の構成要素である「主語」・「述語動詞」・「補語」・「目的語」の働きを理解できる。 ・ SV(第1文型)、SVC(第2文型)、SVO(第3文型)を理解できる。	
		4週	Lesson 2 (文型と動詞)	・ SVOO (第4文型)、SVOC (第5文型)を理解し、第3文型と第4文型の書き換えができる。 ・ 自動詞と他動詞の違いを理解できる。	
		5週	Lesson 3 (時制)	・ 現在形、過去形、現在進行形、過去進行形を理解し、実際に用いることができる。 ・ 「動作動詞」と「状態動詞」の違いを理解できる。 ・ 頻度を表す副詞を理解できる。	
		6週	Lesson 3 (時制)	・ 「単純未来」・「意思未来」を理解し表現できる。 ・ 「意図」や「予測」のbe going toを理解できる。 ・ 「時や条件」を表す接続詞の後で用いる現在形と未来進行形の注意すべき用法を理解できる。 ・ 未来を表す様々な表現が理解でき、実際に用いることができる。	
		7週	Lesson 4 (完了形) 次週、中間試験を実施する。	・ 「完了・結果」・「経験」・「継続」を表す現在完了形および現在完了進行形を理解し、実際に用いることができる。	
		8週	Lesson 4 (完了形)	・ 「完了」・「経験」・「継続」を表す過去完了、過去完了進行形、過去の時間的な前後関係を表す「大過去」を理解し、実際に用いることができる。	

後期	2ndQ	9週	Lesson 4 (完了形) Lesson 5 (助動詞)	・未来のある時点における「完了」・「経験」・「継続」を表す未来完了、未来完了進行形を理解し、実際に用いることができる。 ・「能力」・「許可」・「依頼」・「可能性」を表す can/could、 「許可」・「推量」を表す may/might、「必要」・「義務・禁止」・「推量」を表す must、「義務」、「必要・不必要」を表す have to を理解し、実際に用いることができる。
		10週	Lesson 5 (助動詞)	・「義務」・「助言」・「推量」を表す should、「命令」・「忠告」を表す had better を理解できる。 ・現在の意思や主張を表す will、「依頼」を表す will/would を理解できる。 ・「過去の習慣や意思」を表す would/used to を理解できる。
		11週	Lesson 5 (助動詞)	・「助動詞 + have + 過去分詞」を用いて、過去のできごとに対する話し手の判断の仕方を理解できる。 ・would を含む慣用表現を理解し、実際に用いることができる。
		12週	Lesson 6 (受動態)	・助動詞の基本的な意味と形を理解し、実際に用いることができる。 ・未来を表す受動態や助動詞を含む受動態を理解し、実際に用いることができる。 ・進行形の受動態や完了形の受動態を理解し、実際に用いることができる。
		13週	Lesson 6 (受動態)	・第4文型と第5文型の文の受動態や、群動詞の受動態を理解し、実際に用いることができる。 ・物事の状態や心理を表す受動態を表す受動態を理解し、実際に用いることができる。
		14週	Lesson 7 (不定詞)	・不定詞の「名詞的用法」・「形容詞的用法」・「副詞的用法」を理解し、実際に用いることができる。
		15週	Lesson 7 (不定詞)	・「to 不定詞の意味上の主語(for ... to~)」・「S+V+O+ to 不定詞」・「S+V+O+原形不定詞」・「疑問詞+to 不定詞」の用法を理解し、実際に用いることができる。
		16週	期末試験	
	3rdQ	1週	Lesson 7 (不定詞)	・「不定詞の完了形」・「不定詞の受動態」・「不定詞の進行形」を理解し、実際に用いることができる。 ・不定詞を使った慣用表現を理解し、実際に用いることができる。
		2週	Lesson 8 (動名詞)	・動名詞の基本的な働き(主語・目的語・補語・前置詞の目的語)を理解し、実際に用いることができる。 ・意味上の主語としての動名詞の働きを理解し、実際に用いることができる。 ・動詞の否定形や完了形を理解し、実際に用いることができる。
		3週	Lesson 8 (動名詞)	・動名詞の受動態を理解し、実際に用いることができる。 ・動名詞を使った慣用表現を理解し、実際に用いることができる。 ・目的語としての動名詞と不定詞の使い分けができる。
		4週	Lesson 9 (分詞)	・名詞を修飾する分詞の働き、前置修飾と後置修飾の違い、補語になる分詞の働きを理解し、実際に用いることができる。 ・知覚動詞・使役動詞を含む文での分詞の働きを理解し、実際に用いることができる。
		5週	Lesson 9 (分詞)	・分詞構文の働きと表す意味を理解できる。 ・分詞構文の作り方を理解し、分詞構文を用いて表現ができる。 ・慣用的な分詞構文を理解し、実際に用いることができる。
		6週	Lesson 10 (関係詞)	・関係代名詞の主格(who, which)、目的格(whom, which)、関係代名詞thatの用法を理解し、実際に用いることができる。
		7週	Lesson 10 (関係詞) 次週、中間試験を実施する。	・前置詞の目的語となっている関係代名詞を理解し、実際に用いることができる。 ・関係代名詞whatを理解し、実際に用いることができる。
		8週	Lesson 10 (関係詞)	・関係副詞の用法を理解し、実際に用いることができる。 ・複合関係詞の用法を理解し、実際に用いることができる。
	4thQ	9週	Lesson 10 (関係詞)	・関係代名詞および関係副詞の「限定用法」と「非限定用法」の違いを理解し、実際に使い分けすることができる。
		10週	Lesson 11 (比較)	・原級を使った比較、比較級を使った比較を理解し、実際に用いることができる。
		11週	Lesson 11 (比較)	・比較級を使った慣用表現を理解し、実際に用いることができる。 ・最上級を使った比較、原級・比較級を用いた最上級を理解し、実際に用いることができる。
		12週	Lesson 12 (仮定法)	・ifを使った「条件」と「仮定」の違いを理解できる。 ・現在についての仮定を表す仮定法過去を理解し、実際に用いることができる。 ・仮定法過去の表現から、現在の事実を読み取ることができる。

		13週	Lesson 12（仮定法）	・過去についての仮定を表す仮定法過去完了を理解し、実際に用いることができる。 ・仮定法過去完了の表現から、過去の事実を読み取ることができる。 ・if節と主節で異なる仮定法の用法が含まれた文を理解し、実際に用いることができる。
		14週	Lesson 12（仮定法）	・未来のことを表す仮定法を理解し、実際に用いることができる。 ・wishやas ifを用いた仮定法を理解し、実際に用いることができる。
		15週	Lesson 12（仮定法）	・仮定法を使った慣用表現を理解し、実際に用いることができる。 ・ifを使わない、または省略された仮定法を理解し、実際に用いることができる。
		16週	期末試験	期末試験の問題の正答を確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	中学で既習の語量の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	1	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	1	

評価割合

	試験	小テスト・課題・ワークブック等	積極性	合計
総合評価割合	60	35	5	100
基礎的能力	60	35	0	95
分野横断的能力	0	0	5	5